

J A新はこだて花卉生産出荷組合落部支部を紹介します

平成23年10月号で、J A新はこだて花卉生産出荷組合の七飯支部と桧山南部支部を紹介しましたが、今回は、道内有数のカスミソウの産地である落部支部を紹介します。

□落部支部の歩み

八雲町は、道南随一の酪農の盛んな町ですが、町南部にある落部地区は、水稻と軟白ねぎや花きなどの施設園芸との複合経営が多い地域で、花きの栽培は、昭和61年頃から始まりました。

昭和63年には、北渡島花卉生産組合が発足し、その後、平成14年2月に渡島・桧山両管内の13農協が合併したことを機に、各地区の花き生産団体が合併し、J A新はこだて花卉生産出荷組合が発足、今回紹介する落部支部は、前身の北渡島花卉生産組合の発足から数えて25年目を迎えます。

□宿根カスミソウの産地

落部支部では、宿根カスミソウとスターチス類を主に栽培しており、その2品目で支部の販売額の9割以上を占めております。特に宿根カスミソウは、道内でも有数の産地となっており、越冬加温作型の出荷が始まる4月下旬から、新株の出荷が終了する11月中旬頃まで、道内や関東方面の各市場に向けて出荷が続きます。

8月下旬はカスミソウの出荷の最盛期で、午前4時半ごろから収穫作業が始まり、その後、調製・選花作業を経て、箱詰めして農協の花き集荷場に出荷しています。

□小さい産地だからこそできること

落部支部では、消費者ニーズを的確につかむため、市場や先進地への視察研修を行っているほか、生産者全戸の圃場巡回を年数回実施するなど、高品質な花の生産に努めています。

また、組合発足当初から、日々の出荷に対して、「販売品目」、「販売市場」、「販売量」の配分を役員中心に生産者自らが話し合っていて決めており、この話し合いの中で、生産者間で技術を含む情報交換と共有が図られています。

お互いに生産状況や出荷物にも気を配るなど、小さな産地だからこそできることを活かし、今後もさらなる品質向上を目指し、皆様に愛される花を生産していくこととしています。



カスミソウの調整作業風景



収穫されたカスミソウ



現地検討会の様子

(写真提供：渡島農業改良普及センター北部支所)
(渡島総合振興局農務課)